福岡を、知ろう

はじめての福岡編

今春、就職や転勤、進学などで福岡に移り住んだ方も多いだろう。福岡は12世紀頃から貿易都市として繁栄し、今はアジアへの玄関口となる国際都市として成長を続けている。福岡市についてあまり詳しくないという方々のために歴史や街を知るツール、進行中の開発計画などを紹介する。これを読めばあなたも福岡通―。

徒歩やバスで歴史巡る

ボランティアガイドと歩く

「福岡空港」に「JR博多駅」。玄関口といえる空港とターミナル駅の呼び名の違い。初めての人は戸惑うようだ。市の名称になっている福岡という地名は、関ケ原の戦いで功を挙げ筑前国主となった黒田長政が、1601年から築いた城に福岡と名付けたのが由来とされる。一方、博多という地名は8世紀には登場していたとされ、その歴史は福岡よりも古い。

江戸時代は城下町の福岡と商人町の博多に分かれ、市街地を形成している。結果として否決されたものの、1票差だったという。その82年後、政令指定都市となり、五つの区が生まれ、その一つが博多区と名付けられ、現在に至っている。

福岡の歴史や街を知るのにお勧めなのが福岡市観光案内ボランティア（福岡市中央区）が毎日開催している「博多・天神まち歩き無料定時ツアー」。博多コースと天神コースの2コースがある。事前申し込みが不要で、その日の気分で気軽に参加できる。ただ、団体客への対応はしておらず、個人のみ受け付けている。

博多・天神まち歩き無料ツアーは博多の総鎮守である櫛田神社などを案内する

博多コースには由緒ある神社仏閣が見学コースに組み込まれている。集合時間は14時で、集合場所は福岡市博多区の櫛田神社近くにある博多町家ふるさと館。集合後、まず博多の総鎮守で博多祇園山笠などが行われる櫛田神社を見学、その後、東長寺や妙楽寺などを見学する。天神コースも集合時間は14時で、福岡市中央区の福岡市役所ロビーに集合し、水鏡天満宮や「福岡市赤煉瓦文化館」などを巡る。

屋根がない開放的なバスで福岡の街を巡る福岡オープントップバス

オープンバスで街を一望

バスに乗って福岡の街を知りたいという方には西日本鉄道が運行する「福岡オープントップバス」がお勧めだ。屋根がない2階建て専用バスに乗車し、専門のガイドによる説明を耳にしながら主要施設を巡る。

「博多街なかコース」「シーサイドももちコース」「福岡きらめき夜景コース」の3コースがある。12年3月の運行開始以来、1日平均200人が乗車し、13年9月に累計乗車数が10万人を突破した。

料金は大人1人1500円（4月1日以降は1540円）。前日までに福岡オープントップバス予約専用ダイヤル（092・734・4434）へ予約する。予約なしでも、当日空きがあれば出発時刻の20分前までに福岡市役所乗車券カウンターで乗車券を購入すれば乗車できる。

3コースのうち博多街なかコースは福岡市役所を出発し、博多駅、櫛田神社、大濠公園・福岡城跡を巡り、約1時間後に福岡市役所へ戻ってくる。

このコースは1日4便運行しており、出発時刻は10時、12時、14時半、16時半となっている。

都市と芽吹く交通網

地下鉄や空港インフラ整備

福岡市では都市の成長に対応して、地下鉄や空港などインフラを整備する計画が進んでいる。福岡市は福岡市中央区の天神南駅と同西区の橋本駅を結ぶ同市営地下鉄七隈線の延伸計画を進めている。延伸するのは天神南駅から同博多区の博多駅までの約1・4キロメートル。2020年の完成を計画し、総事業費は約450億円を見込む。

延伸ルートは天神南駅から国体道路を東へ進み、博多区祇園町で南へ進路を変え、博多駅に直結する。途中、複合商業施設、キャナルシティ博多近くに中間駅を新設することも計画に盛り込まれた。この延伸により、七隈線は天神地区と博多地区という福岡の二大ビジネス・商業街を結ぶことになる。福岡市は同線の利用者数が1日当たり約2万人増えると見込んでいる。

福岡の空の玄関口である福岡空港では滑走路を1本から2本に増設する検討が進んでいる。同空港は年間の乗降客数が約1700万人で国内4位。滑走路1本当たりの着陸回数では国内最多となっている。

博多駅前に16年春開業予定の新商業施設には丸井グループがテナントとして入居する

この過密状況を解消しようと地元自治体などは新空港建設を含めた検討を長年行ってきた。03年から国と福岡県などの地元自治体が連携し、総合的な調査を実施。09年に工事期間や事業費、現空港の利便性などの観点から滑走路増設が当面の対策として有効とする調査結果をまとめた。これを受けて国が環境アセスメント調査を行うなど事業化に向けた作業を行っている。ただ、現時点で完成時期などは未定となっており、福岡県など地元自治体は早期着工、早期完成を国に要望している。

また福岡の成長は企業の投資も呼び込む。今や福岡を代表する商業施設の一つになった福岡市博多区の「JR博多シティ」。11年に開業した延べ床面積約20万平方メートルのビルには百貨店の博多阪急、東急ハンズ、専門店街のアミュプラザ博多などが入居するほか、シネマコンプレックスやコンサートホールなども備える。天神に集中していた福岡の小売業界に地殻変動ともいえる変化をもたらした。

JR博多シティに隣接する博多郵便局跡地でも新たな商業施設の建設が始まった。日本郵便が16年春の完成を目指す「博多駅中央街SW計画（仮称）」だ。テナントには丸井グループが九州初の出店を決めている。

旧博多郵便局の敷地約5000平方メートルに地上11階、地下3階、延べ床面積約6万5800平方メートルの商業ビルを建設する。14年2月末時点でテナント入居が決まっているのは丸井グループのみで「ほかのテナントはこれから選定していく段階」（日本郵便広報室）という。最初に丸井グループの入居を決めたことから、若者向けをメーンにしたテナント選びが進むと予想される。

最大の集積地もさらに刷新

一方、複数の百貨店やブランド店が軒を連ねる天神地区は今でも福岡市最大の商業集積地だ。この天神地区でも商業ビルの新設やリニューアル工事が行われている。

西鉄は1989年に開業した商業施設「ソラリアプラザ」で、総額60億円を投じて開業以来最大規模となるリニューアルに着手した。第一弾として13年11月に南側エントランス外壁の1階から6階部分、約900平方メートルをガラス化したほか、テナントの大幅な入れ替えを行った。

15年春には地下2階の店舗化や西側エスカレーター棟の新設、テナントの刷新などを実施、グランドオープンする予定だ。

また、パルコは10年に開業した福岡パルコの隣接地を取得し、新たなビルを建設中だ。ビルは地上6階、地下3階建てで延べ床面積は約1万4000平方メートル。今秋、福岡パルコ新館として開業する。

さらに、福岡パルコの増床に向けて隣接ビルの所有者である西鉄と出店予約契約を結んでおり、15年春に開業する予定だ。

人と社会の豊かな未来を創造する
モノづくりフェア2014
おかげ様で30回記念
会期 2014年10月15日(水)～17日(金)
10:00～17:00(最終日は16:00まで)
会場 マリンメッセ福岡
主催 日刊工業新聞社
モノづくりコーナー
九州自動車生産推進コーナー
環境・エネルギーコーナー
次世代技術コーナー
モノづくりを支える物流コーナー
中小企業コーナー
産学官連携・団体PRコーナー
NEW 3D関連技術コーナー
NEW 防災・防犯関連技術コーナー
出展募集中!
早期申し込み特典あり!
詳しくはWEBで! モノづくりフェア 検索
展示会のお問い合わせ／日刊工業新聞社 西部支社 展示会事務局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町1-1　TEL.092-271-5715 FAX.092-271-5881
http://www.nikkanseibu-eve.com/mono/
E-mail:monoinfo@media.nikkan.co.jp